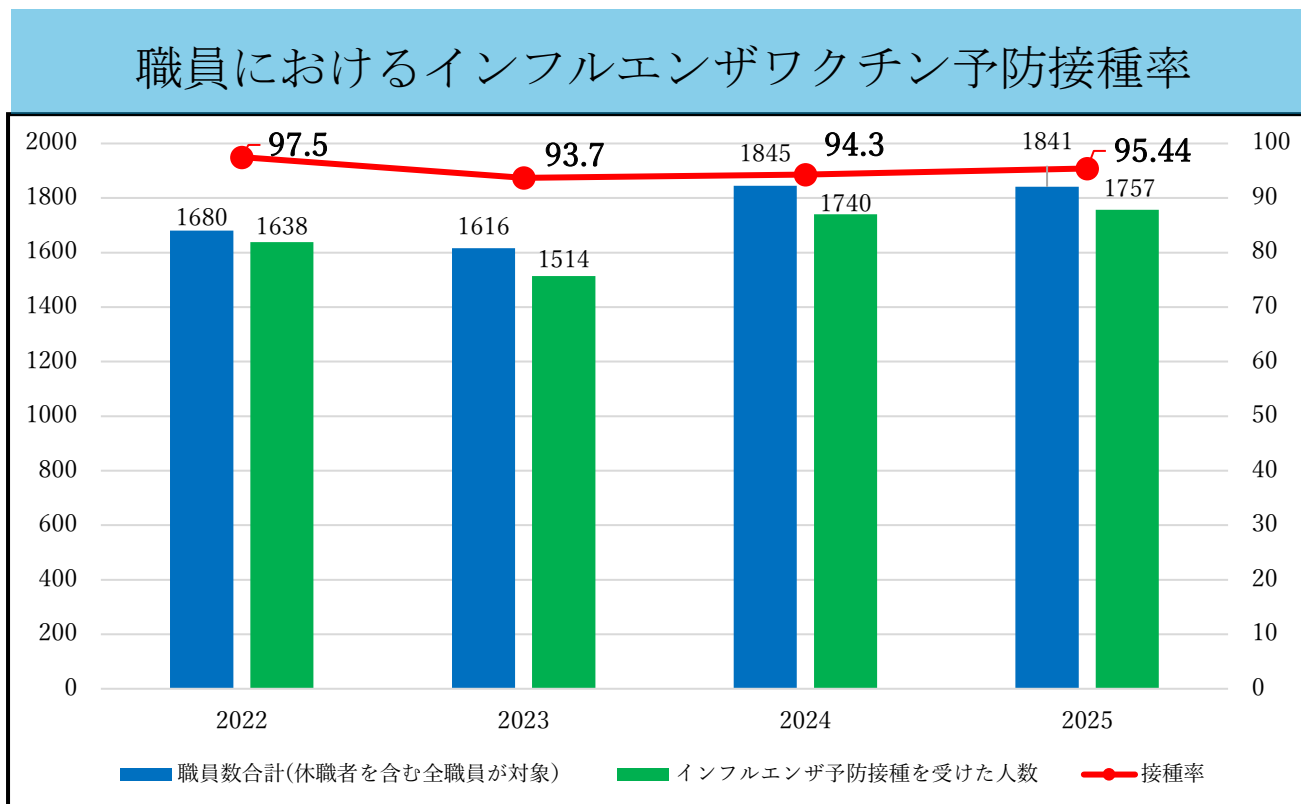


## 8. 職員におけるインフルエンザワクチン予防接種率



### ➤ 指標の説明

職員のインフルエンザワクチン接種率は、医療機関における感染対策の重要な一環として位置づけられています。患者は免疫機能が低下している場合が多く、職員の接種率が高いほど、職員から患者への感染リスクを低減できます。

### ➤ 定義

分子：インフルエンザ予防接種を受けた人数

分母：職員数合計(休職者を含む全職員が対象)

### ➤ 評価

職員のインフルエンザワクチン接種率は全国平均では90%程度と言われているため、例年90%前半を推移している点は高く評価できます。アレルギーや持病で接種できない職員を除き、引き続き職員のインフルエンザワクチン接種率向上に向け予防接種体制の整備や周知をしてまいります。